第３回　体育的活動部会及び専門委員会　部会記録

日時：令和元年６月１３日（木）

会場：千代田区立番町小学校

参加者：常任理事　浅岡校長先生（番町小）

山下校長先生（平井小）

専門委員　大橋（渋谷）、森田（墨田）、大森（小平）、小枝（小平）中村（豊島）

部員　大久保、金子、鈴木、稲田、遠山、桑原、鍵森、西村

話し合った内容について

【前回（第２回）で協議され、提案された、「夢中になっている姿」を３つの資質・能力に分けた表】

夢中になって遊ぶ具体的な姿（１期が重要であることから･･･）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| ①活動の行い方（ルール）がわかっている。②たくさん（力いっぱい）遊んでいる。（体を動かしている。） | ①楽しい行い方に気付く。（見付ける。）②行い方を工夫している。（自分なりの工夫を取り入れている。）③友達にアドバイスしている。（伝えている。） | ①和らいだ表情で遊んでいる。②友達と関わろうとしている。③行い方を守っている。④勝っても負けても満足している。⑤「またやりたい。」と言っている。 |

→視点1をさらに具体したものと考える。

提案された上記の表について、提案していくものとしてよいのかどうかを話し合う。

●視点１で示された具体的な学習（活動）状況と今回示した夢中になって仲間と一緒に遊ぶ姿の数が一致していないのはよいのか。

●すべて教師からの評価であるが、児童の自己評価はしないのか。

　→児童の自己評価はあり？なし？

　→思考力，判断力，表現力等の□３「自分に合った運動遊びを選んでいる」が、できたかどうかの「子供の心」　　　や□１「自分に合った運動遊びの行い方に気付いている」では、気付けたかどうかの「子供の思い」は教師がみとることはできないのではないか。

結論「教師からの評価」と「児童の個人評価」の２つが両輪となることが重要である。加えて、それぞれの回数やタイミングといった方法も検討し、提案していく必要がある。

　　（タイミングや方法は、実証校の実態にも合わせて一つのモデルとして提案する）

●評価をする以上、プレイリーダー（1期における教師）の声掛けなどの役割を示す必要はないのか

　（自分に合った運動遊びの行い方に気付かせたい時には、気付かせるための振り返りでの声掛けがあるのではないか。その指導と評価が一体化になるのではないか。）

●「夢中になる」ことを最終ゴールとして評価する以前に、夢中になる遊びに出会わせるのだとしたら、始めから夢中になっているのではないか。

●「知識及び技能」とあるが、技能はあるのか。多様な動きをつくる運動（遊び）部会では、「知識及び運動」としている。（同じく技能の定着や高まりを求めていない。）

　→初めて出会う遊び、遊び方が分からない遊びはすぐに夢中にはならないのではないか。視点２の関係性においても、「○１行い方を知っている」から、「◇１進んで遊ぼうとしている」となっている。

新たな議題

「進んで遊ぶ」、「夢中になって遊ぶ」の違いとは何のか。

夢中になって遊ぶ具体的な姿　主体的・協働的に取り組む

　　　　　↓　　　　　　　　　　　　　＝夢中になって仲間と一緒に遊ぶ

研究の視点１

進んで遊ぶ≠夢中になって遊ぶ？

・評価のタイミング

・何を、いつ、どのように

「三つの資質・能力の具体的な学習（活動）状況」

とどう違うのか？

夢中にさせられている？

　　　させる？

　　　なっている？

夢中＝没頭【辞典】

没頭とは児童のどの姿をさすのか？

夢中の中に進んでがある考え方　　　　　　　進んでの中に夢中がある考え方

決まってきた方向性

・体育的活動を行った際に、教師（プレイリーダー）は、活動の各場面、各場所で、「夢中になって仲間と一緒に遊ぶ」ことができているかを評価する必要がある。

・教師からの評価と、児童の自己評価を行い、目的は教師目線の活動改善だけではなく、児童目線の3つの資質・能力の高まりであること

・様々な意見が出る以上、捉え方はさまざまであるが、体育的活動部としての夢中になっている姿を定義付ける必要がある。

・評価の方法とタイミング

事務連絡

○実証校

江東区立枝川小学校

○次回の部会

令和元年７月4日（木）

千代田区立番町小学校

１８：３０～